

横須賀市平和中央公園における昆虫等調査 (予報)

内船俊樹 *

Preliminary study of insects and other fauna in Chuo Peace Park in Yokosuka

Toshiki UCHIFUNE*

キーワード: 平和中央公園, 昆虫相, モニタリング, 生息環境, 横須賀市

Key words: Chuo Peace Park, insect fauna, monitoring, habitat, Yokosuka

神奈川県横須賀市の平和中央公園において2021年4月から2023年3月までの2年間、昆虫など節足動物類を撮影および目視によって記録した。昆虫類は13目74科156種、昆虫類以外の節足動物類は2綱3目8科12種を記録した。これらの記録を科別・月別に集計し、以降の調査において分類群ごとに注目すべき季節を視覚化した。記録された昆虫相からは、当地ひいては近隣には水辺がないこと、その一方で好湿性種であるハネナガイナゴ *Oxya japonica* が確認されたこと、下草刈りなどの植栽管理の変化を受けたと思われる差異があったこと、が分かった。また、三浦半島地域で確認されて間もないムネアカオクロテントウ *Synona consanguinea* を記録した。

Insects and other arthropods were recorded by photographing and sightings at Chuo Peace Park in Yokosuka City, Kanagawa Prefecture, for two years from April 2021 to March 2023. 156 species of insects in 13 orders and 74 families, and 12 species of arthropods other than insects in 2 classes, 3 orders and 8 families were recorded. These records were tabulated by family and month to visualize the seasons of interest for each taxon in subsequent surveys. The recorded insect fauna indicated that there were no riparian areas in the site or in the neighborhood, while one of the hygrophilic grasshopper or *Oxya japonica* were observed, and there were differences that may have been caused by changes in planting management, such as undergrowth cutting. In addition, one species of ladybird beetle or *Synona consanguinea* was also recorded, which has not been seen in the Miura Peninsula area for a short period of time.

平和中央公園は神奈川県横須賀市深田台にある都市公園である(第1図)。同公園は1891年(明治24年)に竣工した米ヶ濱砲台をはじめとする旧日本陸軍の施設であったが、戦後連合国軍への接收後、国有地を経て1970年に市の中央公園として供用が開始された経緯をもつ。開園50年目の2020年7月から翌年3月まで公園内の一部に改修工事が入り、2021年4月から平和中央公園として再開園し、現在に至る。

筆者が所属する横須賀市自然・人文博物館は平和

中央公園内に位置し、同館で最も古い建物である自然館は、中央公園と同年の1970年9月に新館として竣工、翌月開館した(羽根田, 1971)。半世紀以上も隣接している公園と博物館であるが、当博物館には公園の生物相に関する公開された調査記録はない。その理由としては、同公園の立地が市街地の一角の高台で住宅地に囲まれ、他の緑地とは分断されていることと、園内が明るく開けており湧水もなく下草は短く刈り込む管理が行なわれていたことから、当博物館付属の2つの自然教育園に比べ生物相

* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台95

原稿受付 2023年12月1日 横須賀市博物館業績 第788号

Corresponding author: Toshiki UCHIFUNE, toshiki-uchifune@city.yokosuka.kanagawa.jp



第1図 調査地(平和中央公園)。横須賀市建設部公園管理課提供の図を元に「平和中央公園はっけん隊」用に山本 薫が作図したものを改変。

が概して貧弱で、調査の優先度が低かったからと考えられる。

当博物館に限らず自然史系の博物館では、地域の様々な自然を資料として収集し、来館者が地域の自然を学べるよう展示を行う。生物資料については標本だけでなく模型・複製や生態写真も展示に配置することにより、実見する体験に近づくよう工夫する。この工夫を、博物館の展示鑑賞体験が野外の自然観察体験へと継ぎ目なくつながるための仕掛けにとらえるならば、自然観察会や講座などの教育活動もまた継ぎ目を埋める上で重要であることはもちろんのこと、館外の自然に関する学習資源を集約したリストや解説書の発行・公開もこの試みの一環に位置づけられよう。

博物館に隣接した自然観察フィールドは、展示鑑賞体験後に屋外で最初に自然観察体験ができる場所

である。金子・佐藤(1990)による都市公園における博物館等施設の分類によれば、博物館に隣接して自然観察体験ができる施設(筆者補足:例えば、千葉県立中央博物館生態園など)では一体配置タイプの自然依存公園が整備されているが、当博物館と隣接する公園のように分離配置タイプの一般公園として整備されている場合は、公園整備に博物館との接続性をハード面で盛り込むことが難しい。このことから、平和中央公園の整備を機に生物調査を行い動植物の目録を作成、来館者が展示鑑賞体験後に公園へ出て自然観察体験を行う際のソフト面での基礎資料とすることを目指し、調査を開始した。本報はその最初の試みとして、再開園当年度と翌年度の2年間における昆虫調査をまとめ、自然観察体験のための基礎資料かつ以降の調査の基礎として役立てることを目指したものである。

方 法

調査は、筆者および調査同行者ととも平和中央公園内で約一時間、目視による探索と写真撮影および野帳へのメモによって行った。なお、調査の多くは植物を担当する調査同行者ととも実施した。調査記録を得た調査日を第1表に示す。証拠資料として写真撮影できた動物を記録として計上したが、動きが激しくて撮影できなかったものや音声のみ確認できたものもあるため、補完的に目撃・聴聞による記録も採用した。

結 果

調査記録は昆虫綱13目74科156種、昆虫類以外の節足動物類は2綱3目8科12種であった。うち写真で記録できなかった種は昆虫類22種、昆虫類以外1種であった。なお、軟体動物や脊椎動物も記録したが、記録数が少ないため本報には含めなかった。

第2表は調査記録を科別・月別に集計したものであり、今後の調査において分類群ごとに注目すべき記録月を明らかにすることを目的にしたものである。以下、各目の記録種を挙げながら動物相に関する特徴を挙げる。分類群については、昆虫綱は西川ほか(編)(2018)を、クモ目は新海(2017)を、甲殻綱は青木(編)(2015)をそれぞれ参考にした。

昆虫綱

トンボ目

1科2種(トンボ科:シオカラトンボ, ウスバキトンボ)を7~9月に記録した。ウスバキトンボは調査時間内で撮影できず、目撃記録のみであった。

バッタ目

7科16種(キリギリス科:ヤブキリ, クビキリギス, ホシササキリ; ツユムシ科: ツユムシ, ヒメクダマキモドキ; コオロギ科: モリオカメコオロギ, ツツレサセコオロギ; ヒバリモドキ科: マダラ

スズ, シバズ; ヒシバッタ科: ニセハネナガヒシバッタ; オンブバッタ科: オンブバッタ; バッタ科: ツチイナゴ, ハネナガイナゴ, ショウリョウバッタ, ショウリョウバッタモドキ, イボバッタ)を4月から12月にかけて記録した。キリギリス科のうち大型の2種(ヤブキリ, クビキリギス)や比較的大型のツユムシ科2種は観察例が少なく、秋(10~12月)に撮影記録が得られた小型種(ササキリ)が多かった。コオロギ科やヒバリモドキ科では、後者に属するマダラスズに記録が集中した。オンブバッタ科とバッタ科では全体的に2年度目の観察例が多かった。特筆すべき記録としてハネナガイナゴ(バッタ科)を挙げる(第2図)。本種はコバネイナゴとともにイネを食害する昆虫として知られ、両種とも化学農薬の影響により一時期大きく数を減らしたのち回復傾向にあるとされているものの、本種のみ回復のペースが遅いことを理由に、県レッドデータ準絶滅危惧種となっている(槐, 2018)。全体的に明るく開けていて水辺もない平和中央公園は本種の一般的に知られる生息環境と異なることから、珍しい記録として以下に挙げる。

ハネナガイナゴ *Oxya japonica* (Thunberg)

1♂, 横須賀市深田台(平和中央公園), 7.VIII.2022, 内船俊樹撮影。(第2図)



第2図 ハネナガイナゴ。2022年8月7日筆者撮影。

第1表 調査実施日。いずれも筆者が参加した調査日。

年	月/日
2021	4/10, 17, 24; 5/16, 22, 30; 6/6, 20; 7/17, 8/15, 21; 10/10, 24
2022	3/5, 13; 4/3, 10; 5/7, 22; 6/4, 18; 7/3; 8/7; 9/18, 24; 10/9, 23; 11/6, 10; 12/4
2023	1/8; 2/5, 28; 3/5

第2表 2年度にわたる調査で記録した昆虫その他節足動物類の科別一月別分布. 筆者による撮影記録は“○”, 筆者および調査協力者による目撃・聴聞記録は“▲”, 記録がない場合は“—”, 調査を実施しなかった月は“x”とした. 各欄は左に 2021 年度, 右に 2022 年度の記録の有無を示した.

目	科	種数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
トンボ	トンボ	2	—	—	—	○	—▲	×▲	—	×	×	×	×	—
バッタ	キリギリス	3	○	—	—	—▲	—	×	○	×	×	×	—	—
	ツユムシ	2	—	—	—	—	—	×	○	×	×	×	—	—
	コオロギ	2	—	—	—	—	—	×	○	×	×▲	×	—	—
	ヒバリモドキ	2	—	—	—	—	—	×	○	×	×	×	—	—
	ヒシバッタ	1	—	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	オンブバッタ	1	—	—	—	○	—▲	×	—	×▲	×	×	—	—
	バッタ	5	—	—	○	○	○	×	○	○	×	×	×	—
ハサミムシ	ハサミムシ	1	○	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
カマキリ	カマキリ	2	—	○	—	—	○	×	—	×	×	×	—	—
ゴキブリ	ゴキブリ	1	—▲	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	チャバネゴキブリ	2	—	—	—	—	○	×	—	○	×	×	×	▲
チャタテムシ	ウロコチャタテ	1	—	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
カメムシ	アブラムシ	8	○	○	○	—	—	×	—	×	×	×	○	○
	セミ	4	—	—	—	—▲▲	—▲	×	—	×	×	×	×	—
	ワタフキカイガラムシ	1	—	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	カイガラムシ	1	—	—	○	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	アワフキムシ	1	—	○	—▲	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	ヨコバイ	1	○	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	オオヨコバイ	1	—	—	—	—	—	×	—	×▲	×	×	×	▲
	アオバハゴロモ	1	—	—	○	○	○	×	—	×	×	×	—	—
	ハゴロモ	1	—	—	—	—	—	×	○	×	×	×	—	—
	カスミカメムシ	2	—	—	—	—	—	×	○	×	×	×	—	—
	グンバイムシ	1	—	○	—	—	—▲	×	—	×	×	×	—	—
	ヒョウタンナガカメムシ	3	—	—	○	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	コバネナガカメムシ	1	—	—	—	—	—	×	—	×	×	×	×	—
	ホシカメムシ	1	—	—	—	—	—	×	○	×	×	×	—	—
	ヘリカメムシ	3	—	—	—	—	○	×	—	×▲	×	×	—	—
	マルカメムシ	1	○	○	○	○	—▲	×	○	×▲	×	×	—	—
	カメムシ	1	—	—	○	—	—	×	—	×	×	×	—	—
アザミウマ	クダアザミウマ?	1	—	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	
アミメカゲロウ	クサカゲロウ	1	—	—	○	—	—	×	—	×	×	×	—	
コウチュウ	オサムシ	2	—	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	ハネカクシ	1	—	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	クワガタムシ	1	—	—	—	—	—	×	—	×	×	×	○	—
	コガネムシ	2	○	—	—	—	○	×	○	×	×	×	—	—
	タマムシ	1	—	—	○	—	—▲	×	—	×	×	×	—	—
	コメツクムシ	2	○	○	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	カツオブシムシ	1	—	○	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	テントウムシ	6	○	○	○	—▲	○	×	○	×▲	×	×▲	—	—
	ゴミムシダマシ	1	—	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	ハムシ	7	○	○	○	—	○	×	○	×	×	×	—	—
	ゾウムシ	4	○	▲	○	—	○	×	○	×	×	×	—	—
ハエ	ガガンボ	1	○	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	タマバエ	2	—	—	○	—	—	×	—	×	×	×	○	—
	ムシヒキアブ	3	—	○	—	○	—	×	—	×	×	×	—	—
	ハナアブ	8	—▲	○	○	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	ミバエ	1	○	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	フンバエ	1	—	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	イエバエ	1	—	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—
	クロバエ	2	—	○	—	—	—	×	○	×	×	×	—	—
	ヤドリバエ	1	○	—	—	—	—	×	—	×	×	×	—	—

第2表（続き）

目	科	種数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
チョウ	マダラガ	1	--	--	--	--	--	×	○	×	×	×	×	--
	トリバガ	1	--	○	--	--	--	×	--	×	×	×	×	--
	スズメガ	1	--	--	--	--	--	×	▲	×	×	×	×	--
	ドクガ	1	--	○	--	--	--	×	--	×	×	×	×	--
	ヤガ	1	--	--	--	--	○	×	○	×	×	×	×	--
	セセリチョウ	1	--	--	--	--	--	×	○	×	×	×	×	--
	アゲハチョウ	3	▲	▲	--	▲	▲	×	--	×	×	×	×	--
	シロチョウ	3	○	▲	▲	○	▲	○	×	▲	×	×	×	▲
	シジミチョウ	7	--	○	○	--	○	○	×	○	×	×	×	--
	タテハチョウ	6	--	○	--	▲	▲	○	×	○	×	×	×	▲
ハチ	ミフシハバチ	1	--	○	--	--	--	×	--	×	×	×	×	--
	ハバチ	1	--	--	--	--	--	×	--	×	×	×	×	--
	コツチバチ	1	--	--	--	--	--	×	--	×	×	×	×	--
	ツチバチ	3	--	--	○	○	--	×	○	×	×	×	×	--
	アリ	6	○	○	○	--	○	×	○	×	×	×	×	○
	スズメバチ	2	○	--	--	--	▲	×	--	×	×	×	×	--
	コハナバチ	1	--	--	--	--	--	×	--	×	×	×	×	--
	ミツバチ	5	○	▲	○	--	--	×	▲	×	×	×	×	▲
	コマユバチ	1	○	--	--	--	--	×	--	×	×	×	×	--
	コシブトハナバチ	1	--	○	--	--	--	×	--	×	×	×	×	--
	トビコバチ?	1	--	--	○	--	--	×	--	×	×	×	×	--
	オナガコバチ	1	--	--	--	--	--	×	--	×	×	×	×	--
	クモ	タナグモ	1	--	--	--	--	--	×	○	×	×	×	×
ササグモ		1	--	--	--	--	--	×	○	×	×	×	×	--
コガネグモ		2	○	○	--	--	--	×	○	×	×	×	×	--
ジョロウグモ		1	--	--	--	--	▲	×	○	×	×	×	×	--
カニグモ		1	--	--	--	--	--	×	--	×	×	×	×	--
ハエトリグモ		4	○	▲	--	--	▲	×	○	×	×	×	×	--
ヨコエビ	ハマトビムシ	1	○	--	--	--	--	×	--	×	×	×	×	
ワラジムシ	ワラジムシ	1	--	--	--	--	--	×	▲	×	×	×	×	

ハサミムシ目

1科1種（ハサミムシ科：ハマベハサミムシ）を4月に記録した。これは朽ち木の中から出てきた♀成虫であり、1例のみの記録であった。

カマキリ目

1科2種（カマキリ科：オオカマキリ、ハラビロカマキリ）を2, 5, 8, 11月に記録した。8月以外の記録は両種とも卵のうによるものであった。

ゴキブリ目

2科3種（ゴキブリ科：クロゴキブリ；チャバネゴキブリ科：ウスヒラタゴキブリ、モリチャバネゴキブリ）を1～4, 8, 10月に記録した。卵のうは2種（クロゴキブリ、モリチャバネゴキブリ）でいずれも1月に確認した。なお、いずれも成虫は記録できなかった。

チャタテムシ目

1科1種（ウロコチャタテ科：同科未同定1種）を1月に1例のみ記録した。当該個体は鱗粉の脱落

が著しく、発見例も少ないことから、他所からの偶発的な飛来の可能性がある。

カメムシ目

17科32種（アブラムシ科：マメアブラムシ、エノキワタアブラムシ、ムギヒゲナガアブラムシ、ソラマメヒゲナガアブラムシ、セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ、同科未同定3種；セミ科：ニイニイゼミ、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシ；ワタフキカイガラムシ科：イセリアカイガラムシ；カイガラムシ科：同科未同定1種；アワフキムシ科：マツアワフキ；ヨコバイ科：同科未同定1種；オオヨコバイ科：ツマグロオオヨコバイ；アオバハゴロモ科：アオバハゴロモ；ハゴロモ科：ベッコウハゴロモ；カスミカメムシ科：グンバイカスミカメ、ウスモンミドリカスミカメ；グンバイムシ科：アワダチソウグンバイ；ヒョウタンナガカメムシ科：アムールシロヘリナガカメムシ、シロヘリナガカメムシ類1種、ヒョウタンナガカメムシ属1種；

コバネナガカメムシ科：ヒメコバネナガカメムシ；ホシカメムシ科：ヒメホシカメムシ；ヘリカメムシ科：ハリカメムシ属1種，ホシハラビロヘリカメムシ，マツヘリカメムシ；マルカメムシ科：マルカメムシ；カメムシ科：クサギカメムシ)について1年を通して記録した。大部分の記録が2年度目のものであった。アブラムシ科は主に4～6月に見つけたが，これは寄主植物上でコロニーを形成していたものである。一方，同科で1～3月に見つけたものは単独で寄主植物とは関係のない場所で見つけたものであり，種の特定が困難であった。セミ科は限られた時間内での撮影が難しく，いずれも鳴き声で記録した。ツマグロオオヨコバイ(オオヨコバイ科)の記録は生息密度が少なく警戒心が強かったため目撃のみの記録となった。アオバハゴロモ(アオバハゴロモ科)とマルカメムシ(マルカメムシ科)は2年目に記録数が減少した。

アザミウマ目

1科1種(クダアザミウマ科：同科未同定1種)を12月に1例のみ記録した。

アミメカゲロウ目

1科1種(クサカゲロウ科：同科未同定1種)を6月に1例のみ記録した。当該個体は葉裏で自由生活をする幼虫であった。

コウチュウ目

11科28種(オサムシ科：セアカヒラタゴミムシ，同科未同定1種；ハネカクシ科：同科未同定1種；クワガタムシ科：コクワガタ；コガネムシ科：アオドウガネ，同科未同定1種；タマムシ科：クズノチビタマムシ；コメツキムシ科：サビキコリ，同科未同定1種；カツオブシムシ科：カマキリタマゴカツオブシムシ；テントウムシ科：フタモンクロテントウ，ナナホシテントウ，ナミテントウ，ダンダラテントウ，ムネアカオオクロテントウ，ニジュウヤホシテントウ；ゴミムシダマシ科：ナミクチキムシ；ハムシ科：ヨツモンカメノコハムシ，ルリマルノミハムシ，ルリナガスネトビハムシ，クロウリハムシ，キボシツツハムシ，アオバネサルハムシ，キバネサルハムシ属1種；ゾウムシ科：ヒョウタンゾウムシ類1種，ヒレルクチプトゾウムシ，シロコブゾウムシ，コフキゾウムシ)について2月を除く各月で記録した。大部分は1例のみの記録であり，比較的多く観察された種は，アオドウガネ(コガネムシ科)，ナナホシテントウ・ナミテントウ・ダンダラテントウ(テントウムシ科)，クロウリハムシ・キバネサ

ルハムシ属1種(ハムシ科)，シロコブゾウムシ・コフキゾウムシ(ゾウムシ科)であった。特筆すべき記録としてムネアカオオクロテントウ(テントウムシ科)を挙げる(第3図)。本種はアブラムシ類と同じカメムシ目のマルカメムシ(マルカメムシ科)を捕食し，神奈川県内では2015年に発見されて以降，分布を広げている外来種である(堀田・高橋，2021)。平和中央公園では下記のとおり2022年9月に本種をクズの葉上で確認したが，ほぼ同じ時期に横須賀市内の他所でも確認しており(内船，未発表)，この年が横須賀市内への分布拡大の初年であった可能性が高い。

ムネアカオオクロテントウ *Synona consanguinea* Poorani, Slipinski et Booth, 2008

1ex., 横須賀市深田台(平和中央公園), 22.IX.2022, 内船俊樹撮影・採集。(第3図)

ハエ目

9科20種(ガガンボ科：同科未同定1種；タマバエ科：クズハトガリタマバエ，タブウスフシタマバエ；ムシヒキアブ科：アオメアブ，同科2種；ハナアブ科：ホソヒラタアブ，フタホシヒラタアブ，ヒラタアブ属1種，ヒメヒラタアブ属2種，シマハナアブ，ナミハナアブ，アシプトハナアブ；ミバエ科：ミスジミバエ；フンバエ科：キアシフンバエ；イエバエ科：ヒメセマダライエバエ；クロバエ科：ツマグロキンバエ，同科未同定1種；ヤドリバエ科：同科未同定1種)について8月を除く各月で記録した。ハナアブ科では記録が初夏と秋に分かれた。タマバエ科は虫こぶとして確認したものである。



第3図 ムネアカオオクロテントウ。2022年9月18日筆者撮影。

チョウ目

10科25種（マダラガ科：タケノホソクロバ；トリバガ科：同科未同定1種；スズメガ科：ホシホウジャク；ドクガ科：キアシドクガ；ヤガ科：ハマオモトヨトウ；セセリチョウ科：イチモンジセセリ；アゲハチョウ科：アオスジアゲハ、アゲハ、キアゲハ；シロチョウ科：キタキチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウ；シジミチョウ科：ウラギンシジミ、ムラサキシジミ、ベニシジミ、ウラナシジミ、クロマダラソテツシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミ；タテハチョウ科：ツマグロヒョウモン、キタテハ、アカタテハ、ヒメアカタテハ、サトキマダラヒカゲ、ヒメウラナミジャノメ）について1年を通して記録した。キアシドクガ（ドクガ科）のように市内他所で大発生したものが偶発的に飛来したものがいた一方で、タケノホソクロバ（マダラガ科）やハマオモトヨトウ（ヤガ科）のように2年にわたり幼虫で記録されたことから当地で発生していることがうかがえるものもいた。ホシホウジャク（スズメガ科）や蝶類の大部分は成虫の記録であり、公園を含む広範囲を花や産卵植物を求めて飛翔する中で記録されたことがうかがえる。

ハチ目

12科24種（ミフシハバチ科：ルリチュウレンジ；ハバチ科：ハグロハバチ；コツチバチ科：ツヤアリバチ属1種；ツチバチ科：キオビツチバチ、ヒメハラナガツチバチ、キンケハラナガツチバチ；アリ科：オオズアリ、アミメアリ、トビイロケアリ、クロヤマアリ、クロオオアリ、同科未同定1種；スズメバチ科：ヤマトアシナガバチ、セグロアシナガバチ；コハナバチ科：同科未同定1種；ミツバチ科：ヒゲナガハナバチ属1種、マルハナバチ族1種、キムネクマバチ、セイヨウミツバチ、ニホンミツバチ；コマユバチ科：同科未同定1種；コシブトハナバチ科：シロスジヒゲトハナバチ；トビコバチ科：同科未同定1種；オナガコバチ科：オナガコバチ属1種）を2～6、8～12月に記録した。アリ科の3種（トビイロケアリ、クロヤマアリ、クロオオアリ）は4～6月に記録が多く、この時期はアブラムシ科のコロニー周辺で観察されたものが多かった。ミツバチ属2種（ニホンミツバチ、セイヨウミツバチ）は後翅の翅脈が撮影できた際には判別できたが、それ以外の撮影および目撃記録については比較的多かったにもかかわらず種の判別ができず、種別確認数として計上できなかった。

缺角綱

クモ目

6科10種（タナグモ科：コクサグモ；ササグモ科：ササグモ；コガネグモ科：ギンメッキゴミグモ、マルゴミグモ；ジョロウグモ科：ジョロウグモ；カニグモ科：キハダカニグモ；ハエトリグモ科：マミジロハエトリ、アオオビハエトリ、アリグモ、同科未同定1種）を1、4、5、8、10、11月に記録した。中でも10月に記録が集中した。

甲殻綱

ヨコエビ目

1科1種（オカトビムシ科：同科未同定1種）を2月に記録した。石の下で見つけており、比較的動物が少ない時期に探索範囲を広げたことで確認できた種である。

ワラジムシ目

1科1種（ワラジムシ科：同科未同定1種）を2、10月に記録した。写真では種を判定できなかったが、前目同様、石の下まで探索範囲を広げると確認することができる種である。

考 察

本調査の結果から、平和中央公園の昆虫類等小型動物相の特徴を挙げる。

1. 水生昆虫が少ない

記録された昆虫綱のうち、目単位で生活史の一部を淡水で過ごすのはトンボ目のみであった。本目は幼虫期を水中で過ごすため水辺の近くに生息する種が多いが、公園には水辺がない。記録された2種のトンボ科のうちウスバキトンボは移動性がきわめて強い種であり（尾園ほか、2017）、シオカラトンボもまた若いうちは水辺を離れて移動する（青木、1998）ことから、いずれも近くに水辺がなくても当地に飛来する可能性が高い。本目同様、幼虫が水生生活をするカゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目もまた記録されていないことは、園内ひいては近隣に水生昆虫が発生する水辺がないことを裏付けている。

2. 好湿性種の存在

本報冒頭で述べたとおり、当地は全体的に明るく開けており乾燥した環境が多い。マダラスズ（ヒバリモドキ科）やイボバッタ（バッタ科）のように、明るく開けた裸地や草地进行を好む種（加納ほか、2016）

の存在は、当地の環境の概況に沿ったものである。一方、水田のような湿地やその周辺の草地に生息する(加納ほか, 2016)ハネナガイナゴ(バッタ科)の存在は、当地に湿った草地環境の存在を示唆する。本種は当地の比較的狭い地点でのみ観察され、調査初年度(2021年度)は記録されていない。前項の議論と本種の存在から、当地には水辺の環境こそないが、好湿性種が記録される程度に湿り気を帯びた環境がわずかながら存在すると言える。本種は確認翌年の同時期(2023年8月)にも記録されている(内船, 未発表)ことから、偶発的な記録である可能性は低いと考えられる。

3. 下草刈りなど手入れによる変化

平和中央公園のリニューアル開園初年度(2021年度)は、同園を直接管理していた横須賀市役所建設部公園管理課によると、従来どおり年2回程度の委託による短期的に強い刈込を行っていたとのことであったが、2年度目から指定管理者による植栽管理に変わり、草地をこまめに少しずつ刈るなど生息する動物に配慮した管理方法に変わった。バッタ科では初年度はツチイナゴのみ記録されたが、2年度目は同種を含む5種が記録された。なかでもショウリョウバッタとショウリョウバッタモドキの2種の記録については、草地の刈込方法が変わったことによる影響が高いと考えられる。一方、アオバハゴロモ(アオバハゴロモ科)やマルカメムシ(マルカメムシ科)のように、当地に限らず各地で普通にみられる種の記録が2年目に少なくなったのは、公園内の手入れが頻繁に入り、これらの種が好む食草が調査範囲にあまり繁茂していなかったのではないかと考える。

上記のうち2と3については、今回の調査結果のごく一部をもとに推測したに過ぎない。より確度を高めるとともに、様々な種をとり上げて考察をするためには、こうした視点に注目して継続調査を行う必要がある。他にも、ハサミムシ目のように落葉をかき分ければ比較的容易に記録できる種や、クマゼミのように平和中央公園でも普通に鳴き声の確認できるにもかかわらず、調査時間帯である午後にほとんど鳴かないことから記録に上がらない種がいるこ

とから、こうした種の記録を行うための調査方法の改善を検討したい。

植物担当として調査に同行した当博物館の山本薫学芸員をはじめ、2022年度の調査ボランティア活動「平和中央公園はっけん隊」参加者の方々には、発見の協力や記録の補助をしていただいた。山本学芸員には調査地図を提供いただいた。横須賀市役所建設部公園管理課の小林暁子職員には平和中央公園の管理についてご教示いただいた。ここにお礼申し上げる。本研究はJSPS科研費JP21K01011の助成を受けた。

文 献

- 青木淳一(編)2015. 日本産土壌動物 分類のための 図解検索 第二版. 1969 ページ. 東海大学出版部. 秦野.
- 青木典司 1998. 新・神戸の自然シリーズ 1 神戸の トンボ(デジタル版). <http://www.2.kobe-c.ed.jp/shizen/tombo/tombo/index.html>. (2024年1月確認)
- 梶 真史 2018. バッタ目(バッタ亜目) Orthoptera (Caelifera). 神奈川県昆虫誌 2018: 106–115.
- 羽根田弥太 1971. 横須賀市博物館新館の完成. 横須賀市博物館雑報, (16): 1–6.
- 堀田佳之介・高橋和弘 2021. 湘南地域でムネアカオオクロテントウを目撃・採集. かまくらちょう, (98): 28–29.
- 金子忠一・佐藤恵利子 1990. 都市公園における博物館等施設の設置基準化に向けての基礎的研究. 造園雑誌, 53(5): 323–328.
- 加納康嗣・河合正人・市川顕彦・富永 修・村井貴史 2016. バッタ目. 町田龍一郎(監修)・日本直翅学会(編) 日本産直翅類標準図鑑: 242–371. 学研プラス, 東京.
- 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮 2017. ネイチャーガイド 日本のトンボ 第3版. 532 ページ. 文一総合出版, 東京.
- 西川正明・荻部治紀・渡辺恭平(編) 2018. 神奈川県昆虫誌 2018. 1038 ページ. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 新海栄一 2017. ネイチャーガイド 日本のクモ 増補改訂版. 408 ページ. 文一総合出版, 東京.